

# 古文ドリル：「て」の識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

## はじめに：「て」の正体（5パターン）

古文の「て」は識別問題で頻出。大きく **5種類** あります。

| 種類                          | 接続/品詞 | 判別ポイント       | 例               |
|-----------------------------|-------|--------------|-----------------|
| ① 接続助詞「て」                   | 連用形接続 | 動作の連結「～して」   | 行き <b>て</b> 、見る |
| ② 完了の助動詞「つ」連用形「て」           | 連用形接続 | 「て+き/けり/たり」  | 行き <b>て</b> けり  |
| ③ 格助詞「にて」の一部                | 体言接続  | 「AにてB」       | 京 <b>にて</b> 生まる |
| ④ 接続助詞「して」の一部               | 連用形   | 「～くして」「～にして」 | 心安く <b>して</b>   |
| ⑤ 形容詞・形容動詞連用形語尾の「て」（「く+て」等） | 形容詞   | 「～くて/～にて」    | 高く <b>て</b> 広し  |

### 識別の鉄則

1. 直前の語の活用形と品詞を見る
2. 動詞の連用形+「て」 → 接続助詞 or 完了「つ」連用形
3. 体言+「にて」 → 格助詞「にて」
4. 形容詞・形容動詞連用形+「て」 → 形容詞・形容動詞語尾
5. 下接語を見る
6. 「て+き/けり/たり」 → 完了「つ」連用形（過去・存続と結合）
7. 「て+動詞」 → 接続助詞
8. 完了「つ」連用形「て」と接続助詞「て」の見分け
9. 後ろに過去・存続の助動詞 → 完了「つ」連用形
10. 後ろに別の動作・状態 → 接続助詞
11. 格助詞「にて」は場所・時間・手段を示す（～で/～によって）

## 🎯 解き方のコツ (時短テクニック)

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。

こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

### コツ① 「て」の後ろを最初に見る

「て」が出てきたら **直後の語** に視線を飛ばす。 - 後ろが **き／けり／たり／ぬ** → 完了「つ」連用形「て」(例：行きてけり／知りてたり) - 後ろが **動詞・別の動作** → 接続助詞「て」(例：行きて見る／聞きて笑ふ)

「て+過去・存続系」なら完了、「て+次の動作」なら接続。

### コツ② 「にて」と来たら格助詞のニオイ

「にて」のかたちは要注意。 - **体言+にて** → 格助詞「にて」(場所・時間・手段)(例：京にて生まる／笛にて奏す) - 連用形+にて → 「に」(連用形語尾) + 「て」(接続助詞) → 形容動詞や助動詞「ぬ」の一部の可能性

直前が名詞なら迷わず格助詞「にて」。

### コツ③ 「～くて／～にて」は形容詞・形容動詞の語尾

- 形容詞連用形「～く」 + 「て」(高く**て**広し)
- 形容動詞連用形「～に」 + 「て」(静か**にて**清し)

「く」「に」の後ろに「て」が来ているなら、それは独立した識別対象ではなく、**形容詞・形容動詞の連用形+接続助詞**の合体形。

### コツ④ 「して」は2つに分かれる

- 連用形+して → 接続助詞「して」(～して)
- 体言+して → 格助詞「して」(～とともに／～の手段で)

「して」を見たら **直前** を確認。動詞連用形なら接続、名詞なら格助詞。

### 試験本番でのチェック順序

1. 「て」の **直後** を見る (き／けり／たり／ぬが来っていないか)
  2. 直後が過去・完了系 → 完了「つ」連用形で確定
  3. 「にて」になっていて直前が体言 → 格助詞「にて」で確定
  4. 「くて／にて」のかたち → 形容詞・形容動詞の連用形+接続助詞
- この順番で **3秒** で答えが出ます。

## よくある引っかけ

- 「て+けり／たり」を接続助詞と勘違いする（実は完了「つ」連用形）
- 「にて」の前が連用形か体言かを誤判定（格助詞か別物かが決まる分岐点）
- 「して」を全部接続助詞と決めつける（「彼**して**告げよ」のような格助詞用法あり）

## 採点表

- 基礎 (Q1~Q20) : /20
- 標準 (Q21~Q50) : /30
- 応用 (Q51~Q80) : /30
- 入試レベル (Q81~Q100) : /20
- 合計 : /100

## 【第1部】基礎編 (Q1~Q20)

5パターンを識別する基本問題。

Q1. 次の傍線部「て」を識別せよ。

京に行き**て**、人に会ふ。

Q2. 次の傍線部「て」を識別せよ。

物書き**て**けり。

Q3. 次の傍線部「て」を識別せよ。

京**にて**生まる。

Q4. 次の傍線部「て」を識別せよ。

高くて広し。

Q5. 次の傍線部「て」を識別せよ。

静かにして眠る。

Q6. 次の傍線部「て」を識別せよ。

出でて行く。

Q7. 次の傍線部「て」を識別せよ。

月見てけり。

Q8. 次の傍線部「て」を識別せよ。

道にて人に出会ふ。

Q9. 次の傍線部「にして」を識別せよ。

あはれにしてしみじみと泣く。

Q10. 次の傍線部「たり」を識別せよ。

寝たり。

Q11. 次の傍線部「て」を識別せよ。

思ひて問ふ。

Q12. 次の傍線部「て」を識別せよ。

嵐にて舟壊れぬ。

Q13. 次の傍線部「て」を識別せよ。

月清くて夜更けず。

Q14. 次の傍線部「て」を識別せよ。

道に迷ひてけり。

Q15. 次の傍線部「て」を識別せよ。

庭にて遊ぶ。

Q16. 次の傍線部「て」を識別せよ。

風吹きて寒し。

Q17. 次の傍線部「て」を識別せよ。

春来てけり。

Q18. 次の傍線部「て」を識別せよ。

心して仕うまつる。

Q19. 次の傍線部「て」を識別せよ。

雨降りて川あふる。

Q20. 次の傍線部「て」を識別せよ。

都にて住まひす。

基礎編 / 20

## 【第2部】標準編 (Q21~Q50)

接続助詞と完了の見分け、係り結び・敬語が絡む応用問題。

Q21. 次の傍線部「て」を識別せよ。

旅してけり。

Q22. 次の傍線部「て」を識別せよ。

月隠れて夜暗し。

Q23. 次の傍線部「て」を識別せよ。

帝、大臣を召していはく。

Q24. 次の傍線部「て」を識別せよ。

御使ひにて参る。

Q25. 次の傍線部「て」を識別せよ。

春過ぎて夏来たる。

Q26. 次の傍線部「て」を識別せよ。

物食ひて寝ぬ。

Q27. 次の傍線部「たり」を識別せよ。

笛吹きたり。

Q28. 次の傍線部「て」を識別せよ。

鶴、首長くして美し。

Q29. 次の傍線部「て」を識別せよ。

言ひてやりぬ。

Q30. 次の傍線部「で」を識別せよ。

物言はで、ただ涙のみぞ流るる。

Q31. 次の傍線部「て」を識別せよ。

川にて舟に乗る。

Q32. 次の傍線部「て」を識別せよ。

静かに歩みてこそ、心穏やかなれ。

Q33. 次の傍線部「て」を識別せよ。

御簾より見てけり。

Q34. 次の傍線部「て」を識別せよ。

我れ若くして学に励む。

Q35. 次の傍線部「て」を識別せよ。

風吹きて舟漂ふ。

Q36. 次の傍線部「て」を識別せよ。

道ありて川にて渡る。

Q37. 次の傍線部「て」を識別せよ。

知りて侍り。

Q38. 次の傍線部「て」を識別せよ。

暗く**て**月もなし。

Q39. 次の傍線部「て」を識別せよ。

御所**にて**召し給ふ。

Q40. 次の傍線部「て」を識別せよ。

一日**にて**二日分働く。

Q41. 次の傍線部「て」を識別せよ。

物のあはれを知り**て**こそ、人ぞあはれなれ。

Q42. 次の傍線部「て」を識別せよ。

笛の音絶え**て**久し。

Q43. 次の傍線部「て」を識別せよ。

唐土**にて**書きたる文。

Q44. 次の傍線部「て」を識別せよ。

いみじく嘆き**て**けり。

Q45. 次の傍線部「たり」を識別せよ。

山深く分け入りたり。

Q46. 次の傍線部「にして」を識別せよ。

風静かにして波立たず。

Q47. 次の傍線部「て」を識別せよ。

言ひてやる。

Q48. 次の傍線部「て」を識別せよ。

弓にて射る。

Q49. 次の傍線部「て」を識別せよ。

月隠れて、夜いと暗し。

Q50. 次の傍線部「て」を識別せよ。

御使ひにて遣はす。

標準編 / 30

## 【第3部】 応用編 (Q51~Q80)

複雑な構文・係り結び・引用を含む応用問題。

Q51. 次の傍線部「て」を識別せよ。

心ある人にあらずして、何をか言はむ。

Q52. 次の傍線部「て」を識別せよ。

春過ぎて夏来にけり白妙の衣干すてふ天の香具山。

Q53. 次の傍線部「て」を識別せよ。

嘆きて過ぐる夜半に、月かたぶく。

Q54. 次の傍線部「て」を識別せよ。

いみじき宿世の人にして、かかる目に遭ふ。

Q55. 次の傍線部「て」を識別せよ。

寝てさめて、また寝つ。

Q56. 次の傍線部「て」を識別せよ。

風吹きて雲動く。

Q57. 次の傍線部「て」を識別せよ。

来て見れば、誰もなし。

Q58. 次の傍線部「て」を識別せよ。

神にておはす。

Q59. 次の傍線部「て」を識別せよ。

我れ仕うまつりて侍り。

Q60. 次の傍線部「て」を識別せよ。

京にて生まれ、奈良にて育つ。

Q61. 次の傍線部「て」を識別せよ。

物のあはれ知りてこそ、と人言ふ。

Q62. 次の傍線部「て」を識別せよ。

言ひてしかば、人みな笑ふ。

Q63. 次の傍線部「て」を識別せよ。

文を書きて遣る。

Q64. 次の傍線部「て」を識別せよ。

草にて茂る庭。

Q65. 次の傍線部「て」を識別せよ。

言はで思ふ。

Q66. 次の傍線部「て」を識別せよ。

山に分け入りて、心細し。

Q67. 次の傍線部「て」を識別せよ。

月夜清くして、夜更け知らず。

Q68. 次の傍線部「て」を識別せよ。

鳥鳴きて春来たる。

Q69. 次の傍線部「て」を識別せよ。

心慰めかねて、なほ嘆く。

Q70. 次の傍線部「て」を識別せよ。

物思ひて過ぐる。

Q71. 次の傍線部「て」を識別せよ。

御供仕うまつりて侍りき。

Q72. 次の傍線部「て」を識別せよ。

風吹き**て**寒けれども、なほ行く。

Q73. 次の傍線部「て」を識別せよ。

道に**て**たちまちにわかれぬ。

Q74. 次の傍線部「て」を識別せよ。

何を思ひ**て**かさは言ふ。

Q75. 次の傍線部「て」を識別せよ。

仏に祈り**て**、心安し。

Q76. 次の傍線部「て」を識別せよ。

京に**て**学びし日。

Q77. 次の傍線部「て」を識別せよ。

心みだれて眠れず。

Q78. 次の傍線部「て」を識別せよ。

名にし負ひ**て**問ふ。

Q79. 次の傍線部「て」を識別せよ。

露置き**て**葉散る。

Q80. 次の傍線部「て」を識別せよ。

春来**て**夏待つ。

応用編 / 30

## 【第4部】 入試レベル (Q81~Q100)

Q81. 次の傍線部「て」を識別せよ。

三日**にて**、なほつき出でぬ。

Q82. 次の傍線部「て」を識別せよ。

中宮、御文書か**せ**たまひ**て**、人にも見せたまふ。

Q83. 次の傍線部「て」を識別せよ。

「いと尊し」と申**して**伏し拝む。

Q84. 次の傍線部「て」を識別せよ。

都を発ち**て**幾日になりぬらむ。

Q85. 次の傍線部「て」を識別せよ。

名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと、人間ひて、舟人涙にむせぶ。

Q86. 次の傍線部「て」を識別せよ。

春のあけぼの、やうやう白くなりゆく山際、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。

Q87. 次の傍線部「て」を識別せよ。

もの隔てて聞けば、宮の御方より、御文奉り給ふ。

Q88. 次の傍線部「て」を識別せよ。

月の都の人にして、月を恋ふ。

Q89. 次の傍線部「て」を識別せよ。

山に分け入りて、心ぼそし。

Q90. 次の傍線部「て」を識別せよ。

内裏より召して、参り給ふ。

Q91. 次の傍線部「て」を識別せよ。

御簾少し上げて、花奉らするを、…

Q92. 次の傍線部「て」を識別せよ。

春の野に、若菜摘みて遊ぶ人。

Q93. 次の傍線部「て」を識別せよ。

嵐にて舟、岸に流れ着く。

Q94. 次の傍線部「て」を識別せよ。

いみじき宿世の人にして、かかる目に遭ふ。

Q95. 次の傍線部「て」を識別せよ。

木の葉に埋もるる懸樋のしづくならでは、つゆおとなふものなし。

Q96. 次の傍線部「に」を識別せよ。

寝にける人ぞ多かりける。

Q97. 次の傍線部「て」を識別せよ。

大納言、御参りにておはす。

Q98. 次の傍線部「て」を識別せよ。

月清くして夜長し。

Q99. 次の傍線部「て」を識別せよ。

行く川のながれは絶えず**して**、しかも、もとの水にあらず。

---

合計 / 100

---

## あとがき

「て」の識別の核心： - **接続助詞「て」** が圧倒的に多い（連用形+「て」+動作） - **完了「つ」連用形「て」** は下に「き／けり／たり／つる」など - **格助詞「にて」** は体言+「にて」、場所・時間・手段・資格 - **「して」** はサ変連用「し」+接続助詞「て」、または打消「ず」+「して」「で」（打消接続）と混同しないこと。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

---

© 個別指導塾フィット / 中本裕太 <https://kotennosensei.com>